

新城市民病院で地域研修を行って

名古屋第一赤十字病院

私は 8/10-9/5 まで新城市民病院で研修を行いました。外来から入院、地域医療に関してなどいろいろな経験ができました。

地域医療に関しては自分が自治医大出身ということもあって、今後赴任する可能性のある、作手診療所、乙ノ林診療所、津具診療所に見学に行くことができました。それぞれの診療所での設備はまちまちではありますが、どこもエコーやレントゲンなどの設備があり、やりようによってはさまざまなことができるなというのが印象でした。その他、往診にも連れて行っていただき、人生の最期をどのように考えるのか実際に感じることでとても勉強になりました。終末期は医学的に正しいことが、本人にとっての正解でない場合も多く、本人の意思をしっかりと聞くことがとても大切であると実感できました。

新城市民病院では外来を継続的に見るだけでなく、入院加療に関しても主体的に見させてもらうことができました。チームでの振り返りでは入院加療を行う上で疑問に思ったことや、提案などを行い、それに対するフィードバックや考え方について説明いただきとても勉強になりました。また、さまざまな先生の患者さんを一緒に見せていただき、私がカルテに書いたことを読んで、会ったときにこうした方がいいなどフィードバックをいただくことができ、いい環境で研修ができていると感じました。

外来診療に関しても、普段あまり気をとめずに投薬されている、高血圧や糖尿病、肺炎、脂質異常症、骨粗鬆症などの common disease に関して、文献やエビデンスに基づいての投薬を行うかどうかの判断や、そうしない場合の患者説明、薬の使い分けなどについて、各々が勉強し、患者に最善の医療を行うという意識が感じられました。また、毎日振り返りを行い、各々にさらに必要な問診や、鑑別疾患、治療に関してみんなで振り返ることはとてもいい場であると思いました。

勉強会については朝の勉強会と、UpToDate 勉強会、EBM 勉強会がありました。

EBM 勉強会では名郷先生に論文の読み方について教わりました。論文の研究デザインで注意する点や、患者背景などに注意することを教えていただきました。自分は今まで、論文を読むときにはあまり患者背景などを見ずに、結果のみ見ていました。実際に患者背景や研究デザインに着目して論文を読むとこの論文の結果を目の前の患者さんに適応できるかを考えることができます。読むだけで満足せず、実際の臨床にどう生かせるかを考える大事さに気付かされる良い機会となりました。

今回の研修では指導医の鈴木先生や中村先生をはじめ、さまざまな先生からたくさんのことを学ぶことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

来年からも至らない点が多々あると思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

